

結果速報

2009年7月27日(月)

サーモテック 2009 第5国際工業炉・関連機器展
東京ビッグサイト(東京国際展示場)東ホール 1
2009年7月22日(水) - 24日(金)

サーモテック 2009 第5回国際工業炉・関連機器展、18,000名を超える来場者を迎え、盛況裏に閉幕

モチベーションの高い来場者に出展者からは満足の声

アジア最大規模の工業炉・熱技術、関連機器の展示会『サーモテック 2009 第5回国際工業炉・関連機器展』は、7月24日(金)に閉幕した。不況の影響から開催前は出展規模が危ぶまれたこともあったが、蓋を開けてみると、海外7カ国(アメリカ、ドイツ、中国、イギリス、オーストリア、カナダ、韓国)を含め145社・団体が出展し、3日間で18,292人の来場者が会場となった東京ビッグサイト東1ホールへと足を運んだ。購買決定権のある来場者が増大し、会場内で多くの時間を出展者との商談に費やすビジネス志向の高い来場者があり、出展者の多くから予想以上に活気のある開催だったとの評価が聞かれた。

来場者数	7月22日(水) [曇り/雨]	5,316人
	7月23日(木) [曇り/雨]	6,487人
	7月24日(金) [曇り/雨]	6,489人
	合計	18,292人

注目度の高かったCO2削減や省エネなどの実現する新技術

1993年の初開催以来、4年に1度開催されている同展は今年で開催は5回目。国内唯一のこの分野の展示会ということもあり、前回開催までは4年に1度の工業炉業界のイベントというムードが強かったが、製造業界全体が不況で低迷する中開催された今回は、販売や知名度アップに結びつけようと、出展ブース装飾に工夫を凝らしたり実演をするなど、工業炉メーカーをはじめとする出展企業・団体各社共に、力の入った展示が目立った。CO2削減と省エネなど環境への取り組みがこれまで以上に重要視されている中、今開催のテーマ「環境・熱・未来～モノづくりとCO2削減に工業炉ができること」に沿って、熱効率を改良した省エネ製品やCO2削減のための新技術などが多数出展された。こうした注目の新技術に対しては、来場者からも高い関心が寄せられ、開催されたセミナーやプレゼンテーションも多数が定員オーバーとなったり立ち見が出たりした。また、出展者ブースでも、デモンストレーション時にはブース内に収まりきれない来場者が通路に溢れるなど、新技術に対する高い関心が伺われた。

モチベーションの高い来場者に出展者から満足の声

多くの来場者を迎え、会場内では出展者と来場者が熱心に情報交換や商談を行う様子が連日見られ、会場内は活気に満ちていた。出展者からは、来場者のモチベーションの高さを評価する多数の声が聞かれた。また、サーモテックの特徴ともいえる専門見本市ならではの参加者同士の密な交流も活発に行われており、ビジネスプラットフォームとして同展の重要性が認識される開催となった。

関東冶金工業(株)営業技術2部の河村誠氏は、「今回、バーナーを使ったタイプの炉の内部構造が分かるように作成したカットモデルを中心に展示した。来場いただいているのは、自動車関連、素材関連のメーカー、そして繊維関連の方など。弊社ブースにお越しいただいたのは、どちらかというと新規のお客様より

も、既にお取引のある既存のお客様の来場が多かった。海外のお客様からも事前にアポを入れていただいております、会期中にお話させていただいている。商談というか、「こういうのはできないか」といったようなお話も見本市会場でいただいたりするが、炉というのはオーダーメイドに近い形でおお客様の業種や製造するものに合わせて設計するため、きっかけは展示会での出会いでも、そこからだいたい1年ぐらいやり取りをすることになる。こうした展示会に出展する一番の目的は、アピールすること。そのためにもずっと継続して出し続けることが大切だと思っている」と語った。

今回初めてサーモテックへの出展を果たした三浦工業(株)特機関東営業課長の田坂護氏は、「弊社は今回のサーモテック出展者の中では唯一のボイラーメーカーなので、「どうしてボイラーなのか」と言われる方が多い。弊社が出展しているのは、既にお持ちの工業炉につなげていただくボイラー装置。これにより、炉から放出される廃熱を利用し、省エネルギーを実現することができる。そういうわけで、工業炉ユーザーは全て弊社の潜在顧客となる。2年前に工業炉協会に入会したのがきっかけでこの展示会のことを知り、今回出展した。弊社は普段は違う分野の見本市に出展しているが、だいたい全来場者数の1%ぐらいが弊社ブースへの来場者数となるが多かった。ところが、サーモテックでは3%の比率の方にご来場いただけた。熱心にご覧になってゆく方が多いため、満遍なく全てのブースを見て回っていただけているのではないかと思う」と予想以上の集客に顔をほころばせた。

ビジネスにつながる機会が増えたと語るのは、パーカー熱処理工業(株)製品事業部本部営業部課長 関正広氏。「前回出展時には、我々もまた周囲の出展者も4年に一度のお祭りという感じだった。しかし、不況の影響もあり、今のご時世では出展成果を得られないと出展できない。今回は引き合いもあり出展の成果が感じられる開催だった。」

不況ゆえに積極的にビジネスを行う必要があると語るのはインダクトグループ(株)営業部の江川慎一氏。「主催協会会員ではあるが、不況で経費削減を行っているので、初めは出展をしないつもりだった。同業の競合他社がみなさんサーモテックに出展されるというのを知り、出展することを急遽決めた。モノが売れないこんな時だからこそ、逆に積極的な営業をしなければいけないと考えて出展に臨んだ。出展してみて、新規の方からも引き合いがあり、今回の我々の選択は間違っていなかったと出展に満足している。次回も是非出展したい」と同氏は出展成果に満足の意を示した。

東京ガス(株)産業エネルギー事業部産業技術グループ係長の山崎治氏は不況ゆえの来場者のモチベーションの高さを指摘し、来場者の反響について言及した。「来場対象業界では不況の影響で出張制限なども出されている。そんな状況下だけに、本当にモチベーションが高い熱心な業界関係者が来場していると感じる。ブース内で行ったセミナーでも、参加者は必死にメモを取って、食い入るように真剣に聞き入っていた。また、来場者からの質問も例年になく鋭い。我々にとっては来場されている工業炉ユーザーのみならず、出展されている工業炉メーカーもアプローチしたいPR対象。そんなわけで出展には非常に意義がある。モノが売れない時代だが、逆にそんな時代だからこそ、省エネなど無駄をなくすことへの関心は高い。こうした展示会では、ガスを使うことのメリットをPRし、単にガスの販売普及を行ってただけではなくお客様のソリューションパートナーだということをアピールしたい。」

サーモテックへは毎回出展している工業炉業界最大手の中外炉工業(株)の業務総合部 広報宣伝担当部長である松田千弘氏は、業界を取り巻く状況に言及しながら以下のように今回の出展を総括した。「工業炉は顧客の企業秘密に関わることも多く、こういう見本市の場で一番新しい技術を出展できなかったりもするのが難しいところ。昨年からJIS規制が変更になったので、業界の啓蒙ということも考え、今回の出展ではブース内のステージでデモ用工業炉を使ってJIS改定について紹介するセミナーを行った。デモ用

工業炉は今回のサーモテックのために設計した特別機なのだが、このセミナーで思った以上に集客できた。遠方の方が出張経費削減で来場できないケースもあると思うが、逆に近隣の方でこれまで仕事が忙しくて来られなかった方が今回来場できたケースもあると思う。今回の出展では、環境対策と業界活性化を2本柱のメッセージとした。CO2削減は、我々工業炉業界はもとより製造業界全体で進めていかなくてはならないテーマ。我々のお客さまでも大型設備の企業様はほぼ100%の割合でCO2削減に対応していただいているが、中小企業にはまだまだ普及が難しいのが現状。今後は中小企業でも導入できるような価格帯の技術を紹介していくのが課題だと思っている。」

次回のサーモテックは、東京ビッグサイトにて2013年開催予定！

次回の「サーモテック 2013 第6回国際工業炉・関連機器展」は、2013年7月に、東京ビッグサイトにて開催される予定。同展の最新情報については、展示会オフィシャルサイト(www.mesago-messefrankfurt.com/thermotec/)で、随時、確認ができる。

—終わり—

全3,717文字(スペース含む)

問い合わせ

メサゴ・メッセフランクフルト株式会社

プレス・PR担当 新居延(にいのぶ)

Tel 03-3262-8456 Fax 03-3262-8442

niinobu@mesago-messefrankfurt.com